

“KANAGAWA”

福祉タイムズ

2003 11 No.624

発行日 2003年（平成15年）11月15日
毎月1回15日発行
発行所 〒221-0844 横浜市神奈川区沢渡4-2
社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会
TEL045-311-1423 FAX045-312-6302
<http://www.progress.co.jp/members/jinsyakyo/>
編集発行人 清水勝夫
定 価 100円（郵送料込）
印刷所 神奈川新聞社
昭和27年1月30日 第三種郵便物認可



「あの空の雲が食べたい」会社員から転身して児童養護施設「唐池学園」（綾瀬市）で指導員をしている菊池達男さんは、2歳から18歳までの10人の子どもたちを任されている。「子どもたちが無意識に自分をどれだけ受け入れてくれるか、また自分がどこまで受け止められるか、常にキャッチボールの毎日です」と話す。日々のハードな仕事の疲れも見せず、「あの雲を食べたい」とせがむ子どもを、まるで自分の願いを叶えようとするかのように大空に舞い上げ、そしてしっかりと抱きしめた。（写真・文 菊地信夫）

あんどろ

今年七月、新しいボランティアグループが誕生しました。奇しくも、NHKで三月から九月まで放映されていた、朝のドラマのタイトル「こころ」と同名です。
「自分のできる範囲で、同じ町に住む人の手助けがしたい」。動機はごく簡明でした。ボランティア活動のきっかけとしてよく耳にしますが、重要な活動の土台となりうる基礎的要素を含んでいます。

一年をとると自分のためにだけには頑張れなくなるという。「頑張って」と声をかける人がいて、「おう、頑張るよ」と応える人がいる。もう歩けなくて、みんなが自分を見捨てて行ってしまう時にでも、おぶってでもひっぱっていつてくれる人は必ずいる。

これはドラマの作者、青柳祐美子さんが番組に込めたメッセージです。青春真っ只中で何もかもが心と体に響く時期には、自分のためだけに頑張れます。でもそこを過ぎると、誰かのために頑張りたいと思うようになりません。あの人のために何かしたい、喜んで欲しい。前述のグループはその具現化です。そしてそれは我が町を、心意気溢れる地域へと推移させる可能性を大いに秘めていると、秋の深まりと共に喜んでいく次第です。

津久井町社協事務局長補佐 両角美雄

目次

住民が主役の地域福祉推進に向けて	2・3
神奈川県警が「メール110番」を開設	4
福祉オンパス・ボランティア実践・交流会開催される	5
福祉サービスの質的向上への牽引役として	6
かながわ長寿社会開発センターいきはつらつ	7
連載・心のゆたかさをはぐくむ(8)	10・11